

中欧研修修了レポート

中央ヨーロッパにおける外国語習得能力と 女性喫煙に関するレポート

城西国際大学看護学部

野中淳史

本レポートの構成は最初に今研修で最も印象に残った日本語学科を選択している学生の日本語を使用したコミュニケーション能力の高さについて述べており、次に男女問わずタバコの喫煙率の高さについて書いており、その印象から WHO などの資料をもとに客観的なデータを示し、それら数字的事実から喫煙率の高さの原因をまとめている。最終章では考察および今研修の感想を述べる構成となっている。なお、今研修にて訪問した4カ国(オーストリア、チェコ、スロヴァキア、ハンガリー)を便宜上、中欧と表記しまとめた。

今回私が中欧研修に参加して強く印象に残ったことは日本語専攻の学生の教育レベルの高さである。今研修中に話をすることができた日本語専攻の全ての学生が学年問わず日本語でのコミュニケーションが可能であるに驚愕した。私たち日本人は英語を初等教育から学んでいるにも関わらず、英語を使ったコミュニケーションが未熟であり、それが主に大学で国際関係学部を専攻していたとしても話すことができないという学生も多い。その状況に比べ、大学から日本語の習得を始めた上に、日常的に日本語スピーカーが周囲にいない中、日本語を使用したコミュニケーションを滞りなく進めることができるという教育レベルの高さには目を見張るものがあった。

5月4日に4日にエルテ大学の日本語学科の学生が受けている授業に参加した際に、ある状況が書かれているイラストを日本語学科の先生が提示し、それを学生が日本語に直して説明するというワークを見ることができた。そのイラストは”誰かに何かをさせられたことがある”という複雑な状況を表したものであったが、学生たちは積極的に回答している姿から修学期間が1年未満にも関わらず進歩の高さを伺うことができた。この他言語を習得する早さが日本に比べて早いという背景には、国境が陸続きであるためEU圏の他国が比較的容易に入国でき、多言語が存在する環境が定着しているということが大きな要因だと考えられる。

”EUにおける「多言語・多文化」主義(2003)”という文献によると、欧州評議会では複数外国語教育を促進するためにいくつ科のカリキュラムを進めている。主な内容として第1外国語は「コミュニケーションとしての道具」として、「異文化間交流や異文化理解を目標に特定の地域・文化と密接に関連する学習」を、第3外国語は「職業上必要な目的に応じて学習する」など、到達度や運用領域に相違を置くことを前提に、複数の外国語の運用能力の習得を目標としている。この複数外国語主義はEUの社会構造に非常に適したものだといえる

だろう。前述のように1人が2外国語以上を学習することで、EUという開かれたグローバル化社会に対応可能な人材の育成が適していると考えられる。

日本人が前述のEUと同様に国内外の往来を簡略化した上で発生するグローバル社会を確立し、他言語習得を向上させることが日本国内においても実施可能かという点、日本はEUのように各国が陸続きで他国と面しておらず、他国を訪れる際は航空機を使用しなければならないため、状況を再現することは不可能だろう。そこで私は日本国内にいながら英語学習を向上させる方法はないかを城西国際大学図書館を利用し、[英語 学習 向上]というキーワードを使用し、文献検索を行い英語学習向上の方法を調べた。その結果、文献によっては効果的な方法はあると主張している一方で、継続的な学習が効果的であり、この方法を行うと向上しやすいくということはないなど双方様々な見解があった。そこで英語学習が向上させるため、レポート末尾に記載されている文献を参考に外国語学習の達成度に関わる諸要因を”学習者の要因””授業の要因””教師の要因””社会環境の要因”の4つに大別した。学習者の要因は[知能、外国語学習適正、態度・動機、性格特性、学習ストラテジー、学習スタイル、年齢]、授業の要因は[指導法、指導内容、指導に使用するメディア、指導時間、評価法]、教師の要因は[経験、性格、外国語能力]、社会環境の要因は[必要性、文化パターン、態度、言語構造]とあった。中でも比較的自身でコントロール可能[態度・動機]にフォーカスを当て、学習意欲の向上に関する文献から効果的な学習の考察をまとめた。効果的な英語学習の動機付けには男女共通で[仕事上役立つから]、[英語を学習するのが楽しいから]、[新しいことを学習することが好きだから]という理由が多くあった。また、年齢問わず、どの年代においても共通して学習意欲を高める因子となっていたことは[英語を学習するのが楽しいから]であった。

英語学習を定着させるためには内発的・外発的動機付けの両側面が大切であり、中でも「楽しさ」と「実用性」という2つの側面が重要となることがわかった。これらの要素を自分自身で実施できるようマネジメントをしていくことで継続的な学習が行えることがわかった。

今研修によって中欧諸国のタバコの喫煙率が日本に比べて圧倒的に高いという印象をこの研修期間中に何度も感じた。特に若い女性の喫煙者が日本と比べた際、多いように思えた。日本人女性の喫煙している割合は全体の約7%程度と珍しい。そのため各大学訪問時に日本語学科専攻の学生へ”自分もしくは周囲でタバコを吸っている人物はいるか””タバコを吸っていると答えた人はタバコを吸い始めたきっかけは何か”の二点の聞き取り(n=12)を行なった。その結果、タバコの購入の容易さや法的に16歳から喫煙が可能であること、周囲ですでに喫煙している生徒の影響を受け、中高等学校から喫煙を始めている学生が多いということがよりわかった。また、分煙を行わず道の端で喫煙している者の多さにも驚愕させられた。若者や多国籍の人が集まりやすい観光地や大学構内はもちろん喫煙者が多いのだが観覧車や小学校など本来であれば憚られるべきである子供の前でさえ喫煙する者もいた。近年、日本では健康増進法の一部改正^{*1}など受動喫煙に対する様々な政策を市町村単位で実

施している。その結果、喫煙スペースと禁煙スペースへの理解が日本全体で進んでおり、レストランでも完全禁煙の店舗が増えている状況である。その一方でこのように日本と比べ分煙が全く進んでいない国に行ったため、その両者のギャップからこのような印象を受けたのだろうと考えられる。

喫煙に関連する疾患として脳卒中やがん、COPD(慢性閉塞性肺疾患)等が有名である。WHO/EUROによるとヨーロッパにおける30歳以上の成人の全死亡の16%がタバコの使用に起因すると推定している*2。日本の厚生労働省によると平成29年度の日本人男性の平均喫煙率は29.4%、日本人女性の平均喫煙率は7.2%であり、喫煙指数は18.3である*3。それに対し、ヨーロッパ全体では男性平均38%、女性平均19%、喫煙指数は28と日本に比べて非常に高いことがわかる*2。中欧では男性平均36.7%、女性平均26.5%、喫煙指数は28とこちらも同様に比較的高いことがわかる。この喫煙指数の大きな差は日本人女性の喫煙率が低いことが大きな要因となっている。中欧各国の内訳は、オーストリアは男性平均35.5%、女性平均34.8%(2015)*2、チェコは男性平均38.4%、女性平均30.5%(2016)*2、スロヴァキアは男性平均39.7%、女性平均17.6%(2015)*2、ハンガリーは男性平均33.4%、女性平均22.8%(2016)*2である。図1を見るとヨーロッパと中欧を比較した際、中欧女性の喫煙率が極めて高いことが起因し、いずれの国も喫煙指数が上回っている。この女性の喫煙率が高い理由としてチェコの高校生を対象に喫煙の有無を質問紙調査*4を行った際に高校生の間に喫煙を始めるといふ生徒が多く、高等学校に通っている時から喫煙を始めた男子生徒平均38.1%、女子生徒平均37.4%と中欧各国の平均と比べてもとても高いことがわかる。

図1

(%)	日本	ヨーロッパ	中欧	オーストリア	チェコ	スロヴァキア	ハンガリー
男性	29.4	38	36.7	35.5	38.4	39.7	33.4
女性	7.2	19	26.5	34.8	30.5	17.6	22.8
喫煙指数	18.3	28	31.6	35.2	34.5	28.7	28.1

タバコ喫煙率の高さに危機を感じ、2013年よりEUからEU加盟国全体に向けて、タバコ規制に関する法案が可決されているが、その法案の罰則の程度は加盟国に委ねる形式を採用しているため拘束力は非常に弱い。この結果未成年の喫煙を取り締まることができておら

ず、返って若者にとっては法律に背いた行動をすることで背徳感を得てしまうため、助長している可能性すら考えられるだろう。

今研修によって前述した外国語学習に関する意欲や定着率の高さを知ることができた他、私が特に関心のある公衆衛生分野における喫煙に関することを、この中欧研修という実際に赴いて学びを深めるというフィールドワークを通じて実体験として理解することができた。特にヨーロッパの喫煙率の高さということは在学している中で学ぶことがなかった分野であるため変学びとなった。そのほかにも教会の建築様式や日本にない街並み、食文化など詳しく述べることができなかつたが様々な学びが研修の全日程にあったため、非常に満足度の高い良い研修となった。

引用参考文献

- ・ *1 厚生労働省 受動喫煙対策
→<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000189195.html>
- ・ *2 WHO “report on the global tobacco epidemic, 2017”
- ・ *3 厚生労働省 国民衛生の動向 2017/2018
- ・ *4 Sent Euro PH “Tobacco use amongst high school students in the Czech Republic”
- ・ Manfred Neuberger “Failure of Tobacco Control in Central Europe”
- ・ WHO/Europe “Tobacco Use and statistics”
- ・ EUにおける「多言語・多文化」主義(2003)
- ・ 外国語一貫教育における複言語・複文化能力育成に関する研究
- ・ 英語力向上に寄与する要因の分析(2001)
- ・ 英語学習における意欲の向上(2006)
- ・ 英語学習における学習意欲喪失の社会的要因(2009)
- ・ 大学生の英語学習における同期減退要因の予備調査
- ・ 日本人英語学習者の動機付け-JGSS2003 のデータ分析を通じて-